

1 学校教育目標

○進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○学びの楽しさや喜びを発見できる学校 ○豊かな人間性を培う学校 ○健やかな心身を育む学校 ○地域・家庭と信頼で繋がる学校
○児童・生徒像	○主体的・自律的に学び、自ら考え、正しく伝えることのできる児童 ○自己を肯定し他者の人権を尊重できる人権感覚と、グローバル的視点でSDGsへの指向も備わった児童 ○心身ともに健康でたくましい児童 ○
○教師像	○専門職として優れた知識や技術を備え、研鑽に励む教師 ○児童、保護者、地域と幅広い人間関係を大切にできる教師 ○与えられた使命を見失わず、責任感と実践力を備えた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学びの実感とそれに伴う自己肯定感は、自分を大切にしていれば他者を尊重できる豊かな心の源にもなる。学力向上は、安定した学校生活を築く土台であり、それに向けて教職員は、研修や多くの研鑽機会を重ね、従来の授業形態のアナログの良さとICT機器の持つデジタル的利点を活用し、ハイブリッドな授業作りに取り組む。タブレットの全員配布によるICT活用学習が加速されたが、反面SNS上における問題行動が社会的な課題となる現在、情報モラルを身に付けるためにも相手を思いやる人権感覚や社会性に関わるSDGs的視点を培い育むことも必須事項であると考えている。

混乱の続く世界情勢の中でこれからの子どもたちには、視野の広い社会人として必要な見識や判断力と実践力が求められる。道徳教育やSDGs活動を通して、それらを培っていきたい。そして、遠い世界を見回すだけでなく、周囲の人々である友人や家族、地域の方々と関わりを大事にできる心の柔軟性をもった知徳体のバランスの取れた子どもたちを育む教育体制の構築を目指す。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	正しい人権感覚を備えた豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	豊かなスポーツライフを実現させる資質能力の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎力の充実と応用力の伸長		区学力調査通過率 80%以上				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の定着と発展的学習の推進	全学年 国・算	通年	・授業改善計画の設定 ・ICTデータの分析 ・補充指導体制の完備	・各学力調査 ・AIドリル等	・区学力調査通過率 80%以上 ・都全国平均値	自己評価の際に記入		
2 継続	教員の授業力向上	全教員	通年	・校内外での研修の充実 ・教科担任制を意識した個別の研修姿勢の奨励。	・授業観察や教員間、児童の授業評価。	・授業評価 85点以上			
3 継続	学校図書館活用	全学年	通年	・学校図書館重点支援校として各種活動を展開させる。	・図書館活用計画に即した検証。	・平均読書冊数 ・作品提出率 ・肯定意見 9割			
4 継続	SDGs への取り組み	全学年 生活全般	通年	・各教科、道徳、特活等の生活全般を通して関連性を明確にする。	・児童の学習記録や日常生活の変容等。	・意識調査アンケートによる肯定的回答 9割			
5 継続	ICT活用の日常化	全児童 全教員	通年	・教職員の研修の充実 ・児童の活用の定着 ・家庭学習への導入	・教員相互の授業公開や研修	・日常の学校ツールとしての使用			
6 継続	各種検定への取り組み	全児童 国・算・英語	通年	開かれた学校づくり協議会、PTA との共催による漢字・算数・英語検定	・受験者数 ・合格率	・全校児童の 3割が受験 ・合格率 8割超			

重点的な取組事項－２		正しい人権感覚を備えた豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他の生命と心を尊重できる均整のとれた公正な心の育成		生活への肯定的姿勢をもつ児童、QU調査等において生活満足度領域内にいる児童が9割を超える。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
SDGs ターゲット 4.7 (ESD) の定着化	児童の9割がその主旨を理解し、肯定的な意見を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳授業の充実 ・ 人権教育の推進 ・ なかよし班活動 ・ 自然教室での環境学習 ・ クリーン運動等の奉仕活動 ・ ユニセフ募金等への参加 ・ 給食等を通しての食育 ・ LGBTQ への正しい理解学習等について学校生活全般の中で、座学・体験・講演を実施。 	自己評価の際に記入		
情報モラル教育	児童のタブレット使用における不適切な活用及びトラブルゼロ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティ教室の一環としてのテキストや動画、外部講師による講演等の機会設定。 ・ アカウムの定期的な点検 			
キャリア教育	自己肯定感を持つ児童が全体の9割を超える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夢デザインシート」を中心とした進路設計と意欲の向上 ・ 地域、保護者との連携による講演や外部機関の活用。 			

重点的な取組事項－3		豊かなスポーツライフを実現させる資質能力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心と体の連携を一体として捉え、主体的に運動に取り組み親しむ児童の育成。		<ul style="list-style-type: none"> 各運動領域の特性に応じた指導。 体育好きの児童が90%を超える。 	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が夢中になれる体育授業への取組み	<ul style="list-style-type: none"> 毎回課題設定を行った授業を実施する。 体育の授業に肯定的な児童の意見が90%を超える。 	昨年度の校内研究で残されたデータを活用しながら、数年来定着しているコーディネーショントレーニングのもつ心と体のリレーションを活かした授業を構成する。	自己評価の際に記入		
体力調査結果の分析と課題への手立ての実践	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査結果が昨年度を上回ることを目指す。 結果が全国平均値またはそれを上回ることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果に基づいて各学年、学級単位での重点項目を設定する。 学年間での共通理解を図る。 			
体育的活動の充実による日常的な運動習慣の定着化	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に運動に親しみ運動好きと解答できる児童が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流なかよし班活動の月1回の実施。 各季に種目の異なるスポーツ旬間の設定。 縄跳びをはじめ各種目のエキスパートとの交流体験の実施。 			
健康保持増進への実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活習慣の励行。 各種検診後の治癒率が前年よりも上回る。 感染症予防への日常的な取り組み意識。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭への呼びかけも含めてその効用等が学べる機会設定 保険的行事での全教員の共通理解と組織的協力体制の確立。 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）